



証券コード
4579

2017年12月期(第10期)決算& 2018～2020年12月期 中期経営計画に関する 補足説明資料

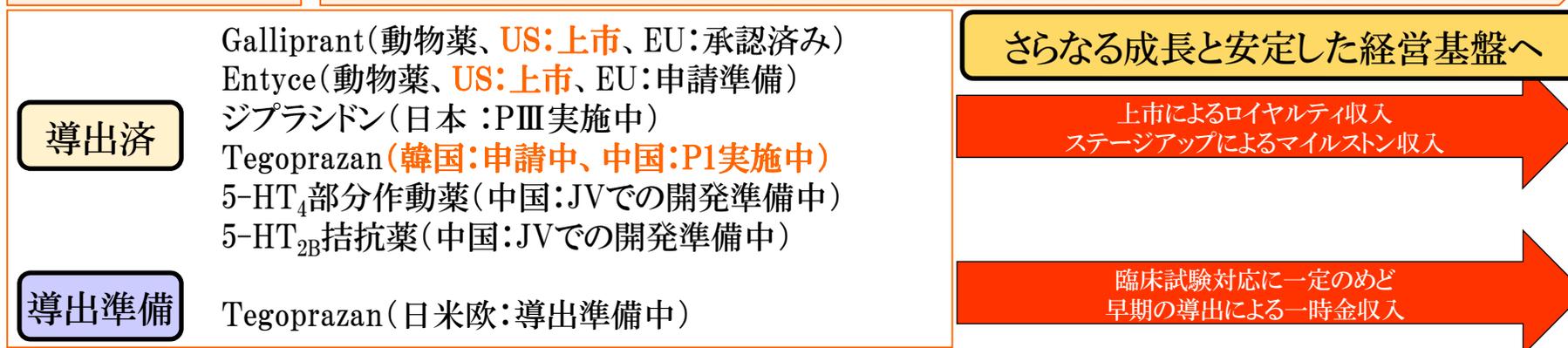
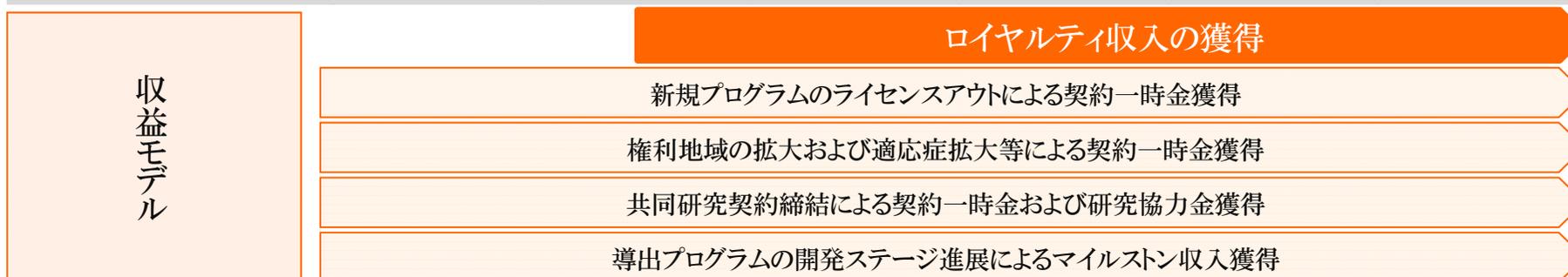
公表日：平成30年2月13日(東証ジャスダック グロース:4579)

RaQualia Pharma Inc.

Copyright© 2018 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

実績と今後の業績目標(概要)

| 【連結】 (単位:百万円) | 2016年12月期 (実績※1) | 2017年12月期 (当初計画) | 2017年12月期 (実績) | 2018年12月期 (計画) | 2019年12月期 (目標) | 2020年12月期 (目標) |
|------------------------|---------------------|---------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 事業収益 | 705 | 1,176 | 1,419 | 1,388 | 1,961 | 1,850 |
| 営業利益(△) | △759 | △791 | △150 | △698 | 182 | 134 |
| 経常利益(△) | △720 | △799 | △80 | △680 | 206 | 158 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益(△) | △728 | △800 | △58 | △686 | 134 | 101 |



※1. 第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しており、前連結会計年度については記載しておりません。

ご注意：本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

費用の概要

| (単位;百万円) | 2016年12月期 (実績) | 2017年12月期 (当初計画) | 2017年12月期 (実績) | 2018年12月期 (計画) | 2019年12月期 (目標) | 2020年12月期 (目標) |
|----------|-------------------|---------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| ①事業原価 | 117 | 145 | 149 | 150 | 184 | 86 |
| ②事業費用 | 1,348 | 1,823 | 1,420 | 1,936 | 1,594 | 1,630 |
| (内)人件費 | 534 | 567 | 580 | 626 | 629 | 680 |
| (内)研究開発費 | 277 | 628 | 296 | 550 | 291 | 311 |
| (内)管理統制費 | 249 | 296 | 259 | 355 | 235 | 249 |
| (内)施設関連費 | 155 | 181 | 164 | 234 | 271 | 206 |
| (内)その他 | 133 | 151 | 119 | 171 | 168 | 184 |
| 合計(①+②) | 1,462 | 1,968 | 1,569 | 2,086 | 1,778 | 1,716 |

2018年
12月期

研究開発費:第 I 相臨床試験(RQ-00310941)

支払ロイヤルティ等:マイルストーン収入に伴うスポット的な費用及びロイヤルティ収入に伴う費用
管理統制費:フェーズ1(RQ-00310941)付随費用、設備投資に伴う減価償却費等

2019年
12月期

支払ロイヤルティ等:マイルストーン収入に伴うスポット的な費用発生及びロイヤルティ収入に伴う費用発生

2020年
12月期

支払ロイヤルティ等:ロイヤルティ収入に伴う費用発生

※2016年12月期は当社単体、2017年12月期～2020年12月期は、当社グループ連結の業績予想及び業績目標です。

ご注意：本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

2017年12月期 実績に関するQ&A①

| No | 質問 | 回答 | 参照頁 |
|----|-------------------------------|---|--------|
| 1 | 今回の決算における特出すべき点について | <p>①2017年12月期業績の当初計画からの大幅な改善 当初の計画と比較して、実績が大幅に改善しています。具体的な要因は、以下の通りです。</p> <p>事業収益：</p> <p>当初計画していた米国における動物薬2剤の販売開始に伴うマイルストーン収入と当社が初めて計上開始したロイヤルティ収入、提携先との共同研究の進捗によるマイルストーン収入の計上に加え、年度末に契約が成立した2つのライセンス契約による契約一時金の計上が増収の主な理由です。</p> <p>営業損益：</p> <p>上記、事業収益の増加に加え、当初費用計上を予定していた5-HT_{2B}拮抗薬(RQ-00310941)のフェーズ1臨床試験の遅延による事業費用の減少が主な理由です。</p> <p>②提携先との探索研究プロジェクトの順調な進捗</p> <p>③提携先での順調な臨床試験(開発)</p> <p>④提携先での順調な臨床試験(動物薬)</p> <p>⑤自社開発・産学連携の進捗</p> | P4～9 |
| 2 | 2017年12月期の期末時点における運転資金の状況について | <p>運転資金は、順調な事業収益からの資金収入と事業費用圧縮効果、2017年10月に調達をした約10億円により、十分と考えております。</p> | P10～11 |

※参照頁は、「2017年12月期(第10期)決算&中期経営計画説明会」資料において該当するページを記載しておりますので、ご参照ください。(次頁以降も同様です。)

ご注意：本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

2017年12月期 実績に関するQ&A②

| No | 質問 | 回答 | 参照頁 |
|----|---------------|---|------|
| 3 | 主な事業収益の内訳について | <p>2017年12月期の主な収益イベントは、以下の通りです。 なお、金額が少額のものとは明示しておりません。</p> <p>契約一時金： マルホ株式会社(選択的ナトリウムチャンネル遮断薬) CJ HealthCare Corporation(韓国)(tegoprazan/RQ-0000004)</p> <p>マイルストーン収入： Aratana Therapeutics, Inc.(米国) Galliprant®(犬の変形性関節症治療薬):米国販売開始・欧州承認申請、 Entyce®(犬の食欲促進薬):米国販売開始 旭化成ファーマ株式会社(特定のイオンチャンネル):一定の水準を達成 他</p> <p>ロイヤルティ収入： Aratana Therapeutics, Inc.(米国) Galliprant®及びEntyce®:米国販売に伴うロイヤルティ</p> <p>研究協力金関連： 旭化成ファーマ株式会社(特定のイオンチャンネル) 他</p> | P4~9 |

※参照頁は、「2017年12月期(第10期)決算&中期経営計画説明会」資料において該当するページを記載しておりますので、ご参照ください。(次頁以降も同様です。)

ご注意：本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

2018年12月期 通期連結業績予想に関するQ&A①

| No | 質問 | 回答 | 参照頁 |
|----|-----------------------------|--|---------------|
| 1 | 前年度と比較して、減収・減益になっている点について | <p>通期連結業績予想作成の前提： 当社は、中期経営計画「Odyssey2018」において黒字転換する年度を2019年と定めており、その計画に変更はない一方で、前年度(2017年度)と同様に新規契約締結等による業績の改善を目指してまいります。また、策定にあたっては、計画達成の蓋然性を重視しております。</p> <p>事業収益： 昨年度作成した中期経営計画の目標数値は、1,291百万円(2017年5月11日公表値)でありましたが、今年度は、1,388百万円に計画数値を増加しております。この数値には、当社がイベント発生予定時期について確度をもって把握できないものは含んでおりません。</p> <p>事業費用： 今期事業費用の増加は、2017年12月25日の業績予想修正でも触れておりますが、主に2017年12月期期末に終了予定であった5-HT_{2B}拮抗薬(RQ-00310941)の第I相臨床試験が2018年度に遅延したことによるものです。</p> <p>営業損益： 昨年度作成した中期経営計画の目標値は、△263百万円でありましたが、上記、事業費用の増加が主な理由となり、営業損失が増加しております。</p> | P13～ 14、16 |
| 2 | 2018年12月期の期末における運転資金の状況について | <p>中期経営計画の資金調達戦略で記載の通り、2017年12月期期末の資金残高実績は約41億円となっております。計画が順調に推移することで、運転資金は十分と考えております。</p> | P47～ 50 |

2018年12月期 通期連結業績予想に関するQ&A②

| No | 質問 | 回答 | 参照頁 |
|----|---------------|--|-----|
| 3 | 主な事業収益の内訳について | <p>2018年12月期の主な収益イベントは、以下の通りです。 なお、事業収益予想には、当社がイベント発生予定時期について確度をもって把握できないものは含めておりません。</p> <p>契約一時金： ZTE Coming Biotech Co., Ltd JVスキーム(中国) (RQ-00000010、RQ-00310941)</p> <p>マイルストーン収入： Aratana Therapeutics, Inc.(米国)、CJ HealthCare Corporation(韓国)</p> <p>ロイヤルティー収入： Aratana Therapeutics, Inc.(米国) Galliprant®(犬の変形性関節症治療薬)、Entyce®(犬の食欲促進薬)</p> <p>研究協力金関連： 旭化成ファーマ株式会社他</p> <p>新規契約関連： 消化器：Tegoprazan(日米欧)、グレリン受容体作動薬、モチリン受容体作動薬 疼痛他：選択的ナトリウムチャンネル遮断薬、共同研究等</p> | P14 |

中期経営計画(2018年12月期～2020年12月期)に関するQ&A①

| No | 質問 | 回答 | 参照頁 |
|----|-----------------------|---|------------|
| 1 | 中期経営計画の作成となる前提・数値について | <p>前述のとおり、当社は、中期経営計画「Odyssey2018」において黒字転換する年度を2019年と定めており、その計画に変更はない一方で、各年度とも新規契約締結等による業績の改善を目指してまいります。策定にあたっては、計画達成の蓋然性を重視しており、事業価値・株主価値に寄与する投資については、積極的に検討してまいります。</p> <p>【2018年12月期】 前述の通りです。</p> <p>【2019年12月期】 当事業年度は当社にとって、営業損益を黒字化する初年度として重要な年度と位置付けており、さらなる成長と経営基盤の安定化を目指してまいります。 <u>事業収益(1,961百万円)</u>：提携先からの開発進捗に伴うマイルストーン収入と経営安定化に貢献する販売開始品からのロイヤルティ収入、新規契約締結等による契約一時金、研究協力金の獲得を目指します。 <u>事業原価、事業費用(1,778百万円)</u>：費用は、17億円台を基準。継続的な成長を維持するための研究開発体制とします。 <u>営業利益(182百万円)</u>：黒字化初年度となることを目指します。</p> <p>【2020年12月期】 2019年12月期と同様に当事業年度は、黒字化を継続する年度として重要な年度と位置付けており、さらなる成長と継続的な経営基盤の安定化を目指してまいります。 <u>事業収益(1,850百万円)</u>：提携先からの開発進捗に伴うマイルストーン収入と経営安定化に貢献する販売開始品からのロイヤルティ収入、新規契約締結等による契約一時金、研究協力金の獲得を目指します。 <u>事業原価、事業費用(1,716百万円)</u>：費用は、17億円台を基準。継続的な成長を維持するための研究開発体制とします。 <u>営業利益(134百万円)</u>：継続的な黒字化となることを目指します。</p> | P47～ 50 |

中期経営計画(2018年12月期～2020年12月期)に関するQ&A②

| No | 質問 | 回答 | 参照頁 |
|----|-------------------------|--|-----|
| 2 | 中期経営計画期間における運転資金の状況について | 2018年度は、前述のとおりです。2019年度及び2020年度の資金収支は、営業損益の黒字化によりプラスとなる予定で、目標数値が順調に推移することで十分と考えております。 | P50 |
| 3 | プログラム導出先での開発状況について | <p>Tegoprazan(カリウムイオン競合型アシッドブロッカー/RQ-00000004)：</p> <p>① 韓国：CJヘルスケア株式会社(韓国)が韓国でフェーズ3を終了し、2017年8月に韓国食品医薬品安全処(Ministry of Food and Drug Safety: MFDS)に承認申請中。2018年～2019年販売開始見込。</p> <p>② 中国：Tegoprazanの中国の権利のサブライセンス先であるShandong Luoxin Pharmaceutical Group(中国)により、中国におけるフェーズ1試験が開始。今後、臨床試験が順調に進むにつれ、CJヘルスケア株式会社を通じて、当社へのマイルストーン収入が期待されます。</p> <p>③ ROW：2017年12月に胃食道逆流症治療薬(tegoprazan)のライセンス地域拡大契約を締結。今後の展開次第で、当社へのマイルストーン収入が期待されます。</p> <p>ジプラシドン(セロトニン5-HT_{2A}およびドパミンD₂受容体拮抗薬)(日本)： 現在、Meiji Seika ファルマ株式会社主導でフェーズ3臨床試験を実施中。 2019年春頃、承認申請予定、2020年販売開始見込。</p> <p>動物薬：</p> <p>① Galliprant®(grapiprant/RQ-00000007) 米国：米国FDAより動物薬製造販売承認取得、2017年1月より販売開始。 順調に成約件数を増やしております。 欧州：欧州EMAより2018年1月12日に動物薬製造販売承認取得。 販売開始に伴い安定的なロイヤルティ収入が期待できます。</p> <p>② Entyce®(capromorelin/RQ-00000005) 米国：米国FDAより2017年10月より販売開始。 販売開始に伴い安定的なロイヤルティ収入が期待できます。</p> | — |

ご注意：本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

中期経営計画(2018年12月期～2020年12月期)に関するQ&A③

| No | 質問 | 回答 | 参照頁 |
|----|------------------------|--|-----|
| 4 | 自社開発品の進捗状況について | 5-HT _{2B} 拮抗薬(RQ-00310941)のフェーズ1試験は、現在英国で実施されておりますが、その試験結果は、2018年第1四半期頃の発表を予定しています。 | — |
| 5 | テムリック株式会社の連結業績への寄与について | TM-411(一般名:タミバロテン)は、現在、導出先企業のSyros Pharmaceutical, Inc.(米国)により多剤併用フェーズ2試験を計画・実施中です。また、中国では、急性前骨髄球性白血病(APL)治療薬として輸入薬承認を目指しております。さらに乳がんや神経芽腫などの適応拡大も検討中であり、2018年から2019年以降の連結業績の下支えになることを期待しています。 | — |

本資料の取り扱い(留意事項)について

- 本資料は、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。本資料は投資家の参考に資するため、ラクオリア創薬株式会社の現状をご理解頂くために、ラクオリア創薬株式会社が作成したものです。
- また、本資料にはラクオリア創薬株式会社の現在の計画や今後の見通しが含まれています。これらの計画や見通しは当社が現時点での前提に基づいて判断したものであり、その実現を保証するものではありません。また、将来の計画や今後の見通しを完全に見通したとは限らず、将来の業績に影響を与えるリスクや不確実な要素が含まれており、実際の計画や見通しは様々な要素により、これらと異なることがあります。
- なお、投資を行う際には、必ず投資家ご自身のご判断で行っていただきますようお願いいたします。



RaQualia
innovators for life

お問合せ先

TEL:052-446-6100

E-mail: 当社HPからお願いいたします。

<http://www.raqualia.co.jp>

RaQualia Pharma Inc.

Copyright© 2018 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.